

福島県 教育新聞

発行人 福島県教職員組合
発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141
〔定価一部 20円〕
編集・責任者 瀬戸 禎子
e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp
http://www.f-t-u.or.jp
(この購読料は組合費に含まれています。)

ろうぎんのキャッシュカードなら
ATMお引き出し手数料が
実質 0円
ご利用手数料はいったんご負担いた
だく場合がありますが、即時キャッ
シュバックいたします。
東北労働金庫

学校にいる誰もが“幸せ”になるために、人権をまもろう！

4月30日(日)ユラックス熱海において、第73次教育研究分科会推進委員会が行われました。新型コロナウイルスの感染状況も落ち着いている状況ということもあり、対面形式での開催となりました。参加者は約70人で、20代・30代の参加者も多く見受けられ、活気のある集会となりました。

全体会では、今年度の教育研究の方向性について書記長から説明があり、今年度は「人権」をテーマに実践していくことを確認しました。教職員組合では子どもたちの人権に視点を置いた教育とは何かを考え、推進してきました。文科省が12年ぶりに改訂した生徒指導提要(2022年12月)では、「児童生徒の基本的な人権に十分配慮し、一人一人を大切にしたい教育が行われることが求められています。」とあります。また、こども基本法が4月1日から施行され、「全てのこどもについて、個人として尊重され、その基本的な人権が保障されるとともに、差別的取扱いを受けることがないようにすること。」という文があります。国もやっと子どもの人権を守ることの重要性を理解を示した結果です。

そのような人権尊重の視点で、名古屋大学大学院教授の内田良さんから「学校をカエル!～だれが校則を決めるのか～」をテーマに講演を受けました。午後は8つの分科会が行われ、秋の県教研に向けた協議が行われました。

内田さんの講演から

組体操や柔道の部活動における事故によって、負傷し亡くなる子どもが後を絶たない。今の教育は「リスク」を軽視し、「ベネフィット」を重視する傾向がある。それは、困難を乗り越えた先にある“達成感”に喜びを感じてしまうから。

今の社会は「学校依存社会」となっている。下校中は学校の管理下ではないにもかかわらず、地域の人が学校に電話をかけてくる。何でも学校に言えば改善されると思っている人が多い。



コロナ禍でマスクの色は「自由」となったが、果たしてそれによって学校は荒れたのか? 今まで以上のストレスフルな環境であったとしても荒れていない。一方で不登校の子どもは過去最多。「多様性=乱れ、個性=わがまま」として子どもたちを否定し続けるのか、肯定し続けるのか。コロナ禍から学び変わることができるのか。今が大事な分岐点ではないか。

ラスボスは職員室にあり。改革しようと思っても共通理解を図ることが難しい場合もある。しかし、職員室に「仲間」も必ずいる。互いの考えを共有し議論を経て、視点を変えていこうとするプロセスが重要。

警察の介入を求めることを「教育の放棄」と受け止める考え方が根強い。そのため、学校では対処できない事態に陥りながら抱え込みを続け、さらに悪化させてしまう事例も見受けられる。このようなことも「長時間労働」の一因であると考えられる。

分科会から

環境・公害・総合学習と防災・減災教育

8つの分科会(日本語教育、美術教育、技術・職業教育、インクルーシブ教育、両性の自立と平等をめざす教育、環境・公害・総合学習と防災・減災教育、カリキュラムづくりと評価、教育条件整備の運動)では、昨年行われた72次全国教研の報告と質疑応答、秋の県教研に向けて討議の柱立てを行い、話し合いが行われました。



「春闘」で学校現場の実態を県教委へ伝えました!

4月26日(水)、中央執行委員と支部代表者により、春闘の県教委交渉を行い、長時間労働の解消と教職員不足解消に関する内容を中心に要求しました。

長時間労働の解消については、今年度初めの準備期間が非常に短かったことを踏まえて、「入学式までに平日で5日間は確保」するよう求めました。また、定期テストの廃止や特設クラブ・部活動を勤務時間内に終わらせること、今までの学校の「当たり前」をやめて業務を減らすことなどを、各学校の現状を訴えながら改善を強く求めました。



「少人数指導」は苦渋の選択…!?でも本当にそれでいいの??

「少人数教育」ではなく「少人数指導」を採用するよう各教育事務所が通知を出したことを“苦渋の選択”であると県教委は認めました。しかし、その選択により、ある小学校の1年生は34人のクラスになったり、進級時の学級編成で学級を1クラス減らすしかなくなったりと、子どもたちの教育環境がないがしろにされている事実を突きつけました。働き方改革を進め、一人でも多くの若者が「福島県で教職員になりたい」と思えるようにするとともに、経験豊富な教職員が定年まで学校で働けるような職場環境の整備を要求しました。



「春闘」で明らかになったこと、前向きな回答

研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」と「人事評価制度」は全く別物です!

両方の手引きを確認しましたが、人事評価制度と「受講奨励」は切り離されており、評価や賃金には反映されないことが判明しました。県教委とも確認しています。

通勤における高速道路の利用に係る「7日ルール」の特例を拡充検討!

7～9月において、通勤で高速道路を利用しない日が、3カ月平均で7日以下であれば手当は減額されません。これを全ての職員に支給できるよう考えていくとの回答!

部活動の地域移行の主体は各市町村教育委員会。県としては予算面の支援もしていきたいと回答。

2022年度、会津若松市で委託事業が進められていました。今年度は拡大予定。各市町村教育委員会が希望すれば対象となる可能性も。

教職員不足の状況を教えてください!!

先月の教育新聞で協力依頼をしたアンケートのご協力、ありがとうございました。春闘交渉でも県教委に年度初めで欠員が生じている学校数を開示するよう求めています。しかし、「現在調査中」とのこと、まだ明らかになっていません。引き続き回答を求めますが、実際に勤務されている組合員さんからの情報が一番の頼りです。皆さんの力を貸してください!

右の2次元コードをお読み取りいただきますと、Googleフォームが開きます。教職員が不足している状況をご回答ください。県教組のHPからも回答できます。個人情報等は厳守しますので、今の学校の状況を教えてください!どうぞよろしくお願いいたします。



学校の多忙の元凶はこれか!?

「福島県総合教育計画」とは…

教育課程編成検討推進委員会からの提言!

あれも **100%**

(ふくしま学力調査で学力が伸びた児童生徒の割合)

それも **100%**

(朝食を食べる児童生徒の割合)

これも **100%**

(家で自分で計画を立てて勉強する児童生徒の割合)

みんな **100%**

(児童生徒がICTを活用する学習をほぼ毎日行う割合)



・ ・ これ、「福島教育」がめざすものです ・ ・

福島県教育委員会が、第7次福島県総合教育計画(令和4年度から12年度までの9年間の教育計画)で掲げた「指標一覧」です。令和12年度の達成目標値です。

いろいろな個性・特性を持つ1人の子どもに、「あれもこれも100%を達成せよ。教員はそれをしっかり指導せよ。」というものです。なんか学校が窮屈になってきたなあ。前よりもさらに…と感じるのはそのためです。どれほど達成できたかを評価するために、現場に調査や集計の依頼がきます。その数値が低いと、「もっと上げよ。」と指導する市町村教委が出てきます。それを気にして「しっかりやるように。数値を上げるように。」と校長が檄をとばします。こうなったら現場は大変です。いや、すでに大変になっています。その要因がここにあると私たちは分析しました。

第7次福島県総合
教育計画から

学びの変革によって実現

目指すべき姿

個人と社会のWell-being(一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ)の実現

福島県が育成したい人間像

急激な社会の変化の中で、自分の人生を切り拓くたくましさを持ち、
多様な個性をいかし、対話と協働を通して、社会や地域を創造することができる人



しかし、この計画は「矛盾」だらけです。「多様な個性をいかし」といいながら、規格通りの人間を育てようとしています。これらの矛盾を明らかにし、目の前の子どもたちにとって必要な「学びの変革」とは何かを、福島県教組教育課程編成検討推進委員会が提言していきます。子どもたちと私たち働くものの命と尊厳を守るため、共に学んでいきましょう。

は学校で! Monster



「全国学力・学習状況調査」実施に関するWebアンケートご協力のお願い

4月に「全国学力・学習状況調査」が行われました。
みなさんの職場でこんなことはありませんでしたか？

- (例)・過去問を何度も解かせるよう指示があった
- ・自校採点を行うよう指示があった
- ・オンライン方式での実施に手間取った

実施に伴う現場の負担は今年も大きかったと思います。みなさんの職場の実態を、Webアンケートでお聞かせください。全国から集まった声を日教組が中心となってまとめ、文科省協議を行うとともに、調査の廃止に向けた要請に取り組んでいきます。ご協力をお願いします。

回答締め切り…7月31日(月)



みんなのひろば

～子どもと一緒に楽しめる おすすめスポット～

3月下旬に、相馬市「尾浜こども公園」へ子どもとともにに行ってきました。とにかく広い公園で、人工芝もあり、息子が大はしゃぎ!

息子・娘とともに、レジャーシートを敷いてお昼ご飯も食べてきました。

公園の隣は、原釜尾浜海水浴場と、相馬市伝承鎮魂祈念館もあるので、夏は海で遊ぶこともできますし、震災の学習にも役立ちそうです。

(福島支部 Aさん)



みんなのひろば原稿募集!

このコーナーは、組合員のみならず、ほっこりしたり、感動したり、ためになったりするような素敵な情報をお待ちしております(*^▽^*)たとえば…

・私の一押し本や映画の紹介 ・なんでも自慢! 「孫自慢」「わが子自慢」「ペット自慢」などなど!

★メールやFAX (0120-17-9312) 県教組LINE公式アカウントでお寄せください。

「今回のテーマは「大切にしたいこと」」

ノスタルジー



千春は北海道弁で語りかける。
人の命には限りがある。限りがあるからこそ、人は悲しく、寂しく、かけがえがない。命が永遠ならばオレは歌う必要はないんだ。人生がいつかどこかで終わることを知りながら、終わると分かっているのに生きる。こんな悲しいことないじゃないか。だからオレは悲しいからこそ愛しいと歌う。それが歌の原点だべや、と。

父と母と北海道の愛情が千春を育んだ。その愛が原点となつて、この世に生まれて生きることはすばらしいことだ、と千春は歌い続ける。終わりのあることを分かっているながら生きる人々の心を動かすために。癒やすために。愛するために。それが千春の歌だ。

ぼくが千春の歌を聴いて受けた衝撃は千春の生き方そのものだったのかもしれない。

悲しみ、共感、また時に言葉に表せない感情もある。心の動きは見えにくい。でも、そこを大切に、ていねいに紡いでいくのが教育の大きな役割だとぼくは思う。Aの範疇ではない。

「また会おうね」そうだ、心の中で会おうか。

(K・I)

「また会おうね」こう言っただけの人、人は数え切れないほどいる。でもまた会えた人は本当に少ない。永遠に会えなくなってしまうこともある。父親もその一人だ。父は昭和一桁生まれの戦中派。典型的な頑固親父だった。父はぼくにとって怖い存在で、大人になっても何度も頭の中で練習しないと話せないほどだった。そんな父に、いいズボンはいっているなあと思われたことがあった。減多にほめない父からはめられた記憶が鮮明で、そのズボンは三十年以上経ってもとってある。

ぼくが高校の修学旅行土産にあげた徳利と盃で、父がとてもうれしそうにお酒を飲んでいたら先日母がぼつりと話した。ちよつと待ってよ。今までそんなこと聞いてないよ。父がそんな姿、ぼくに見せたこともなかったし、父の心の動きなど知ろうとしてもできなかった。胸の奥がズンとした。

大学生になったばかりのころ、北海道出身の友人が、いい歌だから聴いてみてよと、一本のカセットテープを持ってきた。「大空と大地の中で」「旅立ち」「足寄より」その歌声にどんどん引き込まれた。初めて聴いた衝撃は今も忘れられない。

後に「季節の中で」の大ヒットで世に名を知られる松山千春だった。